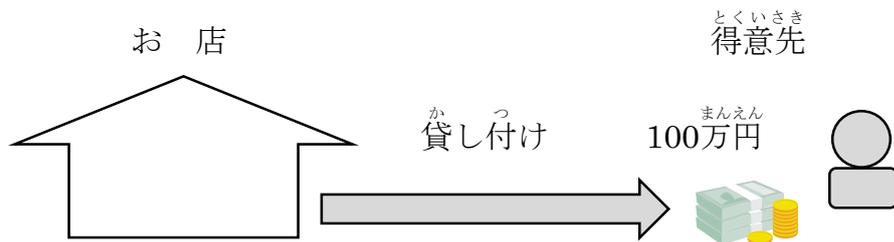


17	お金を人に貸したら？	…貸付け
----	------------	------

たとえば、取引先のひとつが、「いま、うちの資金繰りが厳しいので、一年間、100万円ほど貸してくれませんか？」と言われたとします。

ここは人助けと思って、100万円を貸してあげることもあるでしょう。



この場合、お金を渡すと同時に、得意先に対して、将来（ここでは一年後）お金を返してもらう権利を得ることになります。お金を貸すことによる権利のことを、簿記では「貸付金」といいます。

+	現 金	-	貸 付 金	
	1,000,000		1,000,000	

また、お金を貸すと、利息がもらえます。たとえば現金で利息10,000円を受取ったら、次のように「受取利息」勘定の右側に記入します。

+	現 金	-	受取利息	
	10,000		10,000	

【例題 17】

次の取引を勘定記入してみましょう。

- (1) 現金 100,000 を貸し付けた。
- (2) 一年後、貸し付けた金額 100,000 円を送金小切手で回収した。
- (3) また、貸付金 100,000 円の利息 (2%) 2,000 円を現金で受取った。
- (4) 得意先に 500,000 円貸し付けたが、そのさいに利息 10,000 円を差し引いて、現金 490,000 円を渡した。

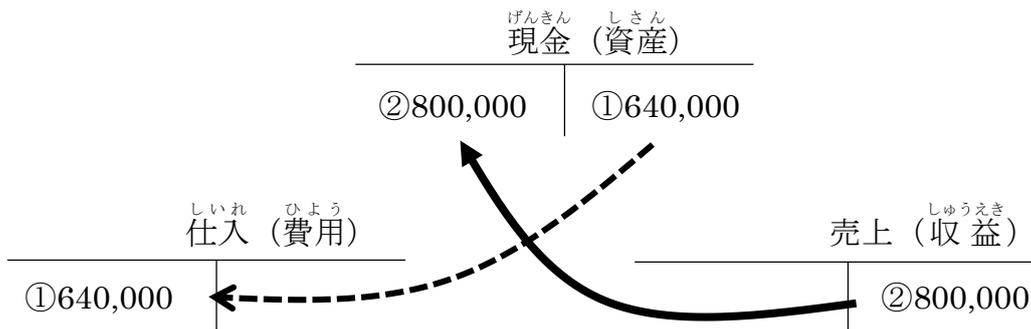
現 金	
(2)	(1)
(3)	(4)

貸 付 金	
(1)	(2)
(4)	

受 取 利 息	
	(3)
	(4)

18	収益から費用を引いたら？	…純利益の計算
----	--------------	---------

企業（店、会社）に現金などの資産が増えたときの主な原因のひとつが収益です。企業から資産が減ったら、その主な原因のひとつは費用です。



収益は、いうなれば企業の収入の源（＝しゅうにゆうのもと）です。この収益から、そのためにかかった費用を差し引けば、その企業が一定の期間で手に入れた儲けがわかります。

収益から費用を引いた儲けのことを純利益といいます。

上の場合は、収益800,000円－費用640,000円＝純利益160,000円です。

収益－費用がマイナスなら企業が損をしたので、純損失といいます。

(費用)	収益と費用の比較	(収益)
給料、発送費、広告宣伝費、 支払家賃、支払保険料、通信費、 消耗品費、旅費交通費、水道光熱費、 雑費、支払利息、雑損		商品売買益 受取手数料 受取利息 雑益
純利益（マイナスは純損失）		

【例題 18】

次の勘定記入をもとに、純損益（純利益または純損失）を求めなさい。

問 1

給 料	商品売買益
8,000	20,000
広告宣伝費	受取手数料
3,600	800
消耗品費	雑 益
5,000	1,200

純利益（ ）円。または、純損失（ ）円。

※当てはまる方のかっこに金額を書けばよい（問 2 もおなじ）。

問 2

給 料	商品売買益
15,000	20,000
通 信 費	受取利息
4,000	900
支払家賃	雑 益
8,000	3,100

純利益（ ）円。または、純損失（ ）円。

19	借入れを現金で返したら？	…借入金の返済
----	--------------	---------

銀行からお金を借りると将来それを返す義務（返済の義務）を負うことになり、帳簿では「借入金」勘定の右側に借りた金額を書くと学びました。

返済の義務のような、法律上の義務のことを「債務」と呼びます。

はたいては、貸した側のほうでは、貸したお金を回収する権利がありますが、このような法律上の権利のことを「債権」と呼びます。

(取引例) いろは商店は、銀行から現金200,000円を借り入れた。

げん 現		かり 借		いれ 入	きん 金
200,000					200,000

次に、借入れた金額を返済する期日が来たら、現金を支払うなどして返済をします。このとき、現金は減少し、借入金という債務も消滅します。

(取引例) いろは商店は、銀行からの借入金200,000円を現金で返済した。

げん 現		かり 借		いれ 入	きん 金
	200,000				200,000

帳簿のうえでは、借入れた時と右左反対の側にそれぞれ記入します。

【例題 19】

次の取引を勘定記入してみましょう。

- (1) 現金 100,000 を銀行から借入れた。
- (2) 一年後、借り入れた金額 100,000 円を小切手振り出しにより返済した。
- (3) また、借入金 100,000 円の利息 (2%) 2,000 円を現金で支払った。
- (4) 銀行から 500,000 円借入れたが、そのさいに利息 10,000 円を差し引かれ、普通預金に 490,000 円が振り込まれた。

現 金	
(1)	(3)
当座預金	
	(2)
普通預金	
(4)	
借入金	
(2)	(1) (4)
支払利息	
(3) (4)	

20	^{てんしゅ しやう おかね ひきだし} 店主が私用でお金を引き出したら？	^{しほん ひきだし} …資本の引き出し
----	--	---------------------------------

^{みせ}店のオーナー（所有者）である店主が店に元入れ（出資）すると、現金勘定の
^{ぞうか}増加として左側に記入し、同時に元手を意味する資本金勘定の右側に記入す
^{べんきやう}ることは、すでに勉強しました。

^{とりひきれい}（取引例）店主が現金300,000円を元入れした。

げん 現	きん 金	し 資	ほん 本	きん 金
300,000				300,000

ここで、店の商売に必要な費用としてではなく、店主の個人的な消費、つま
^{せいかつひ}り生活費のために店のお金を引き出したり、個人の生命保険や自宅の建物の
^{そんがいほけん}損害保険などのために店のお金を引き出したりしたらどうなるでしょう。

このように、店主の個人的な支出のために店の現金を引き出したときは、元手
^{はらいもどした}を払い戻したと考えて、^{しほんきん}資本金の減少として^{しより}処理します。

つまり、^{しほんきんかんじやう}資本金勘定の左側に、店主が個人的に使った金額を書くのです。

^{とりひきれい} （取引例）店主が生活費として現金120,000円を引き出した。				
げん 現	きん 金	し 資	ほん 本	きん 金
	120,000			120,000

【例題 20】

次の取引を勘定記入してみましよう。

- (1) 現金 100,000 と備品 200,000 を元入れした。
- (2) 商品 24,000 円を現金で仕入れた。
- (3) 新聞に店の^{じょうほう}情報を掲載した^{けいさい}広告宣伝費 18,000 円を現金で支払った。
- (4) ^{かけいひ}家計費 55,000 円と店主の生命保険料 5,000 円を現金で引き出した。
- (5) 商品 3,000 円を^じ自家消費した (自分のために使った = 消費した)。

現 金	
(1)	(2) (3) (4)
商 品	
(2)	(5)
備 品	
(1)	
資 本 金	
(4) (5)	(1)
広告宣伝費	
(3)	

(ヒント) 家計費は、店主個人の生活費と同じ意味です。

	練習問題 5	…17～20 の復習
--	--------	------------

問題 1 次の取引を勘定記入してみましょう。

- (1) 現金 200,000 円と商品 100,000 円を出資して事業を開始した。
- (2) 家計費 50,000 円と店主自宅の損害保険料 7,000 円を現金で支払った。
- (3) 銀行から 1,000,000 円を借り入れ、利息 3%を差し引いた残額が当座預金口座に振り込まれた。
- (4) 一年後、1,000,000 円の借り入れを小切手振出しにより返済した。
- (5) 取引先 A 商店に 250,000 円を貸し付けた。利息 10,000 円を差し引いた残額を小切手振出しにより支払った。

現 金	借入金
当座預金	資本金
貸 付 金	
商 品	
支払利息	受取利息

問題2 次の資料をもとに、純損益（純利益または純損失）を求めなさい。

問1

総収益：商品売買益 78,000 円、受取手数料 11,000 円、雑益 1,900 円

総費用：給料 45,000 円、水道光熱費 6,600 円、支払利息 900 円、雑費 200 円

純損益は「 純利益 / 純損失 」が () 円である。

※純利益または純損失のいずれかに○印を書きなさい。

問2

総収益：商品売買益 980,000 円、受取家賃 150,000 円、受取利息 8,000 円

総費用：給料 600,000 円、広告宣伝費 320,000 円、消耗品費 100,000 円、旅費
交通費 77,700 円、支払家賃 100,000 円、雑損 30,000 円

純損益は「 純利益 / 純損失 」が () 円である。

※純利益または純損失のいずれかに○印を書きなさい。